

主日礼拝

2022年07月10日
午前10時30分

前奏 「イス・リスト、我らと共に」 (S.K.イート)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「主に従う人よ、主によって喜び歌え。
主を賛美することは正しい人にふさわしい。
琴を奏でて主に感謝をささげ
十弦の琴を奏でてほめ歌をうたえ。
新しい歌を主に向かってうたい
美しい調べと共に喜びの叫びをあげよ。」
(詩編 33:1~3)

頌栄 26「グロリア」



リタニー 『「違う」と「同じ」』 (『教師の友』7月)

司式者：神さまは私たちが違うように造られました。

右側：違っているから個性が光る。

左側：違っているとバラバラだ。

司式者：神さまは私たちに「同じ」を与えてくれました。

右側：同じだから協力できる。

左側：同じでないから仲間にならない。

一緒に：違うと同じはおもしろい。

違うと同じは難しい。

司式者：神さまは私たちに一つも与えてくれました。

会衆：一つの約束、一人の救い主、

一緒に：そして一つの食卓へといろいろな人を

招かれます。

司式者：神さま、私たちは祈ります。

会衆：「違う」を喜び合えますように、

「同じ」を祝福できますように。

祈禱

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。

みこころの天になるごとく

地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、

我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず、

悪より救い出したまえ。

国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの

なればなり。アーメン。

聖書 使徒言行録 13：13~25

新約(新共同訳)P238~P239

パウロとその一行は、パフォスから船出してパンフィリア州のペルゲに来たが、ヨハネは一行と別れてエルサレムに帰ってしまった。パウロとバルナバはペルゲから進んで、ピシディア州のアンテオキアに到着した。そして、安息日に会堂に入って席に着いた。律法と預言者の書が朗読された後、会堂長たちが人をよこして、「兄弟たち、何か会衆のために励ましのお言葉があれば、話してください」と言わせた。そこで、パウロは立ち上がり、手で人々を制して言った。

「イスラエルの人たち、ならびに神を畏れる方々、聞いてください。この民イスラエルの神は、わたしたちの先祖を選び出し、民がエジプトの地に住んでいる間に、これを強大なものとし、高く上げた御腕をもってそこから導き出してくださいました。神はおよそ四十年の間、荒れ野で彼らの行いを耐え忍び、カナン之地では七つの民族を滅ぼし、その土地を彼らに相続させてくださったのです。これは、約四百五十年にわたることでした。その後、神は預言者サムエルの時代まで、裁く者たちを任命なさいました。後に人々が王を求めたので、神は四十年の間、ベニヤミン族の者で、キシュの子サウルをお与えになり、それからまた、サウルを退けてダビデを王の位につけ、彼について次のように宣言なさいました。『わたしは、エッサイの子でわたしの心に適う者、ダビデを見いだした。彼はわたしの思うところをすべて行う。』神は約束に従って、このダビデの子孫からイスラエルに救い主イエスを送ってくださったのです。ヨハネは、イエスがおいでになる前に、イスラエルの民全体に悔い改めの洗礼を宣べ伝えました。その生涯を終えようとするとき、ヨハネはこう言いました。『わたしを何者だと思っているのか。わたしは、あなたたちが期待しているような者ではない。その方はわたしの後から来られるが、わたしはその足の履物をお脱がせする値打ちもない。』

賛美 355(1,3,4)「主をほめよ わが心」

My soul, praise the Lord
詞：Robert Bridges, 1844-1930

LYONS
曲：Johann M. Haydn, 1737-1806

主をほめよ わが心、主をほめよ
世のひとよ。そのみわざにひめられた
つよいちからふか-いちえ。

- | | |
|--|--|
| <p>① 主をほめよ わが心、 主をほめよ 世の人よ。 そのみ業に 秘められた 強い力 深い知恵。</p> | <p>③ 造られたものすべて、 世の人も 賛美せよ。 こすえ高く 鳴く鳥の、 歌よ響け 山越えて。</p> |
| <p>2 世のすべて とどまらず、 はてしなく かわりゆく。 主のことばに 従って、 海の中に 山移る。</p> | <p>④ 主をほめよ わが心、 そのみ名に ほまれあれ。 主のみわざの 偉大さを、 声のかざり ほめうたえ。</p> |

説教 「神の歴史の中のイエス」

賛美 515「きみのたまものと」

Give of your best to the Master
詞：Howard B. Grose, 1851-1939

BARNARD
曲：Charlotte A. Barnard, 1839-1869

きみのたまものと わかいちからを -
かみのみ名のため すべてもちいよ -。
主イエスはさきだち すすみゆかれる -、
ためらわずに ゆけ、あとにつづいて -。
(くりかえし)
きみのたまものと わかいちからを -
主のわざのために すべてささげよ -。

- | | |
|---|---|
| <p>1 きみのたまものと 若いちからを 神のみ名のため すべて用いよ。 主イエスはさきだち すすみゆかれる、 ためらわずに行け、後につづいて。 きみのたまものと 若いちからを 主のわざのために すべてささげよ。</p> | <p>2 きみのたましいを すべてささげて 神に奉仕する 日々を求めよ。 ひとの世に神は み子をあたえた。 きみは神のため 何をささげる。 きみのたまものと 若いちからを 主のわざのために すべてささげよ。</p> |
| <p>3 どんないわさも キリスト・イエスの 十字架の愛には くらべられない。 きみの罪とがを すべてゆるして あがないのわざを 主はなしとげた。 きみのたまものと 若いちからを 主のわざのために すべてささげよ。</p> | |

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏 「すべての者の救い主なるキリスト」

(C.キアラリ)

司式 光成 由樹
説教 向井 希夫牧師
奏楽 玉理 照子

※お立ちになるのが困難な方は、

座ったままで礼拝をお守り下さい。

※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。